

弘 前 大 学  
教 育 学 部 紀 要

第 120 号

平成30年10月

Bulletin of the Faculty of Education  
Hirosaki University

No. 120

October 2018

弘 前 大 学 教 育 学 部

Hirosaki, Japan

# 目 次

新潟県立図書館所蔵の往来物資料……………郡	千寿子 (1)
—目的別分類の観点から—	
国語教科書に見られる用語の問題点……………吉 田	比呂子 (9)
—「神話」「伝統」「伝統文化」「言語文化」を中心に—	
戦後開拓地における学校と地域社会 (1) ……………高 瀬	雅 弘 (19)
—1970年代の小学校分校における教育実践と地域社会の相互作用に関する事例研究—	
「終戦」の日はいつか? ……………大 谷	伸 治 (31)
—北海道の事例から「8・15終戦」史観を相対化する小学校社会科授業—	
シティズンシップ教育と政治的リテラシー・政治参加……………蒔 田	純 (43)
—八幡市・品川区を事例として—	
韓国におけるSTEAM教育の授業分析……………佐 藤	崇 之 (57)
—初等学校で取り組む粉塵教育の授業実践を例に—	
音楽の創造行為における試行錯誤の理論化の試み (1) ……………清 水	稔 (65)
—「こと」と「もの」の関係性から捉える意味作用の再考察—	
鹿角霊芝子実体の水溶性多糖に及ぼす菌床の影響……………高 坂	陽 寿 (75)
	加 藤 陽 治
青森県産黒房すぐりと赤房すぐりの葉の炭水化物の比較研究……………野 田	聡 子 (85)
	林 田 大 志
	島 田 透
	千 葉 直 子
	大 水 達 也
	加 藤 陽 治
ウルトラファインバブル水を用いた各種繊維の染色……………安 川	あけみ (93)
	服 山 桃 子
	井 畑 杏莉沙
むつ市民を対象とした「2017年食育・健康講座」の意義と課題……………早 川	和 江 (99)
	三 浦 咲 織
	日 景 弥 生
	加 藤 陽 治
CO <sub>2</sub> 排出量と官能検査を考慮したハウレンソウのゆで水量の検討……………楠 美	香穂子 (105)
	木 村 紀 子
	日 景 弥 生
<i>Hi, Friends!</i> と中学校の教科書の語彙的比較……………佐 藤	剛 (111)
—頻度とコロケーションの観点から—	秋田谷 桃 花
発達障害者支援法の改正……………中 山	忠 政 (121)
—改正の経緯と改正法の特徴—	
技術主義と意欲主義の描画指導における「模倣」の捉え方……………加 藤	緑 (127)
—雑誌『保育とカリキュラム』の記事(1964-1989)に着目して—	武 内 裕 明
小学校道徳教育における教育課程をどのように構想するか……………森 本	洋 介 (137)
：副読本の説話を用いた授業と自作教材を用いた授業の比較	
教員養成カリキュラム履修体験は教員初任期の社会化にどう関わるか……………豊 嶋	秋 彦 (149)
：社会化の連続性の諸相	福 島 裕 敏
	吉 崎 聡 子
	平 岡 恭 一
	吉 中 淳

## 弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部 研究推進委員会 紀要編集担当

1. 本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として各年度の10月及び3月の年2回とし、各号はA4版で約150ページとする。
3. 原稿の締切は概ね7月下旬及び1月上旬とする。
4. 論文の著者には本学部または教職大学院の教員が含まれていなければならない。
5. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
6. 各論文の長さは図表等を含めて刷り上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
8. 掲載順序など、編集に関することは本委員会紀要編集担当が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
9. 原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が10ページを超える場合や、カラー印刷や図版の作製などに特別の経費を要する場合は、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は掲載された論文を電子化し、「弘前大学学術情報リポジトリ」に掲載して公開することができるものとする。

この規定は、平成30年4月から施行する。

## 弘前大学教育学部紀要執筆要領

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したUSBメモリ、CD-R等を添付することが望ましい。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
3. 本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当個所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入個所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真、楽譜含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則として一つずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるよう明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」を添付し、本委員会紀要担当者に確認を受ける。

研究推進委員会 紀要編集担当

山 本 稔（代表）

出 佳奈子

武 内 裕 明

山 田 史 生

弘 前 大 学  
教 育 学 部 紀 要  
第120号  
(2018年10月)

平成30年10月 9 日印刷  
平成30年10月12日発行  
編集兼発行者  
弘 前 大 学 教 育 学 部  
弘前市文京町 1 番地  
電話 (0172) 36－2 1 1 1 (代)  
印刷所 小 野 印 刷  
弘前市富田町52  
電話 (0172) 32－7 4 7 1 (代)

# CONTENTS

Investigation report on “OURAIMONO” documents ..... of Niigata Prefectural Library possession: A study based on the purposeful classification analysis	Chizuko KOHRI (1)
Problems of terms found in Japanese language textbooks ..... myth tradition traditional culture and language culture	Hiroko YOSHIDA (9)
School and community in Postwar Reclamation (1) ..... A case study on the interaction between Educational Practice and Community over a branch elementary school in 1970s	Masahiro TAKASE (19)
When did the Asia-Pacific War finish ? ..... —A record of the lesson for Elementary school students on correcting the view that the Asia-Pacific War finished on August 15th focusing on the cases of Hokkaido—	Shinji OHTANI (31)
Citizenship/Civic Education for Political Literacy and Participation: ..... examining the case of Yawata and Shinagawa	Jun MAKITA (43)
Analysis of Class Activity on STEAM Education in South Korea ..... Focus on Primary School Environmental Education that treat dust in air	Takayuki SATO (57)
Re-considering the concept of Trial and error for creative music-making: ..... A reflection on things, matters and the significations	Minoru SHIMIZU (65)
Influence of culture medium on the composition ..... of water-soluble polysaccharides in <i>Ganoderma lucidum</i> fruit body	Akihisa KOSAKA (75) Yoji KATO
Comparative study of the carbohydrates in blackcurrant and ..... redcurrant leaves from Aomori Prefecture	Satoko NODA (85) Taishi HAYASHIDA Toru SHIMADA Naoko CHIBA Tatsuya OMIZU Yoji KATO
Various Fabric Dyeing with Water Containing Ultra-Fine Bubbles ..... Momoko FUKUYAMA Arisa IHATA	Akemi YASUKAWA (93)
Significance and tasks about “2017 dietary education and health lecture” ... for residents in Mutsu city	Kazue HAYAKAWA (99) Saori MIURA Yayoi HIKAGE Yoji KATO
Examination of amount of water at spinach cooking ..... by CO <sub>2</sub> assessment and sensory test	Kahoko KUSUMI (105) Noriko KIMURA Yayoi HIKAGE
Comparing Vocabulary Patterns in <i>Hi, Friends!</i> and Junior High School Textbooks : ... From the Perspectives of Frequency and Collocation	Tsuyoshi SATO (111) Momoka AKITAYA
Background and Characteristics of Partial Revision ..... of the Support Law for People with Developmental Disorders	Tadamasa NAKAYAMA (121)
Consideration of “Mimicry” on Drawing Instruction in Technicism and Motivism: ... Focusing on Articles in the 'Nursery and Curriculum'(1964-1989)	Midori KATO (127) Hiroaki TAKEUCHI
How We Frame Moral Education Curriculum in Elementary School: ..... Comparing Textbook Class with Original Teaching Material Class	Yosuke MORIMOTO (137)
Various Phases of the Continuity in Socialization from Student ..... to New Graduate Teacher: with Special Reference to the Experiences under Teacher Education Program i	Akihiko TOYOSHIMA (149) Hirotoshi FUKUSHIMA Satoko YOSHIZAKI Kyoichi HIRAOKA Atsushi YOSHINAKA